

# 自然観察NOW

№.8

野幌森林公園自然情報

発行：2016年2月14日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## 冬の森の楽しみ方

冬の野幌森林公園では、歩くスキーやスノーシューをはいて、散歩を楽しんでいる人の姿をよく見かけます。純白の雪の上の散歩も確かに楽しいのですが、冬の森ならではの自然観察もまた、楽しいものです。

例えば、野鳥観察。見通しがよくなった森の中では、立ち止まって静かにしていると、あちこちから、キツツキの木をたたく音やカラ類の鳴声が聞こえますし、容易に姿を見ることができます。雪の上のキツネやウサギ、リスなどの足跡を見るのも楽しみです。また、普段はあまり気にしていなかった、樹皮を観察するチャンスでもあります。でも、冬の植物観察といえば、冬芽や葉痕（葉が枯れて落ちた跡）の観察が一番面白いと思います。

## いろいろな冬芽

落葉樹は、葉や花の芽を冬の寒さと乾燥から守るために、鱗状のもので覆ったり（鱗芽）、多毛質のもので覆ったり（裸芽）しています。身の守り方は、植物により様々です。初めは、冬芽を見ても、木の名前は分からないかも知れませんが、経験を重ねるうちに、次第に分かってきます。まずは観察して、色々な冬芽があることを知りましょう。もちろん、観察にはルーペの携行をおすすめします。

写真のシウリザクラ、ミズナラ、ミヤマガマズミは鱗芽です。芽鱗（冬芽を保護する鱗

シウリザクラ



ミズナラ



ヤマウルシ



オオカメノキ



ミヤマガマズミ



サルナシ

状の切片) の数や形の違いがはっきりと分かりますね。枝の先端につく冬芽を頂芽<sup>ちようが</sup>といい、その周辺にある芽を頂生側芽といいます。ミズナラには大抵数個の頂生側芽がつき頂芽が傷ついて失われた場合にはその代わりに果たすことがあります。写真のミヤマガマズミにも数個の頂生側芽がついていますが、これは珍しいケースかもしれません。

ヤマウルシやオオカメノキは毛皮のコートのようなものを身につけています。これを裸芽<sup>はだげ</sup>といいます。オオカメノキのバンザイをした形のもはやがて葉になる葉芽<sup>ようが</sup>で、葉脈がはっきりと分かります。中心にある球状のものは花芽<sup>はなが</sup>です。ヤマウルシの頂芽も毛が密生しており、何か帽子をかぶっているように見えますね。

サルナシの丸い形のもは葉痕<sup>はつち</sup>で、冬芽は見当たりません。実は、ふくらんだ部分(葉枕<sup>ちん</sup>)に冬芽が隠れているのです。このような、外からは見えない冬芽を隠芽<sup>いんが</sup>といいます。

ところで、ミズナラの頂芽の根元に白い球状のものがあるのに気づいたでしょうか。これは、シジミチョウの仲間の卵なのです。冬の厳しい環境の中でも、いろいろな命が息づいているのですね。

## 面白い葉痕

葉痕には何かの顔のように見えるものがたくさんあります。ルーペでいろいろな木の葉痕をのぞいてみてください。目や鼻、口のように見えるのは、葉と枝との間で水分や養分が通っていた跡(維管束痕<sup>いかんそくこん</sup>)なのです。葉痕の形や維管束痕の数は植物によってだいたい決まっています。下の写真は葉痕のほんの数例です。まだまだ、いろいろな面白い顔の葉痕がありますので、探してみてください。

オヒョウ



ハルニレ



オオカメノキ



キハダ



ヤマグロ



オニグルミ

(文と写真；北海道ボランティア・レンジャー協議会 三輪礼二郎)

### 三月の観察会

3月27日(日):「森の中で春をさがそう」

自然ふれあい交流館集合、解散(10:00~12:30)